

元気で新しい八尾のまちづくりを考える市民懇談会 B-1

【学習会を始めるきっかけ】

- 「元気なまち」「子どもが増える」というまちのイメージをつくるために
 - ・子育てへの全般的な支援、「変えていく」という意欲と表現が必要
 - ・外国籍児童へのフォロー・支援等が必要。
 - ・一人親世帯へのフォロー・支援等が必要。
 - ・人権の視点が必要。（学術研究委員等の専門性を、更に反映して行きたい。）
- 「本当に必要な人へ、必要な情報を届ける仕組みが必要」
 - ・広報（特に、「市政だより」の役割は大きい町会に未加入の世帯へは？）
 - ・パンフレット、チラシ等の各種言語の翻訳版が必要では。
- 「各種制度について」
 - ・制度を知っているもののみが得をするような部分をどうするか。
 - ・他人まかせ的に子育てするような人たちがサービスを受ける部分をどうするか。
- 「児童・生徒に関することについて」
 - ・学校でさまざまな課題で悩み、しんどい思いをしている児童・生徒をどう把握しどのようにその背景をとらえ、対応していくかが大切である。
 - ・学校教育の視点からも未修学（不登校・院内学校・障害教育・経済貧困・デモクラティックスクールやフリースクール等）との連携視点や支援システムも忘れてはならない。・・・などの疑問点を、「担当者から直接聞こう！」がスタート！

学習会 4月22日〜「保育／教育』を中心に〜

「次世代育成支援、保育、教育等」担当者からの現状説明と意見交換。

【待機児童、潜在的待機児童対策】

- 市では、保育所定員増などで受け入れ数を着実に伸ばしてはいるが、287名（H20.4.1現在）の待機児童、あるいは中途保育や潜在希望者もある。
 - 「供給が需要を呼ぶ（都市には多い）」という傾向はあるものの、多様な保育制度と情報の提供に欠くことなく、グローバルな国際社会の現実を地域でも「命の芽生え」をみんなで支える「ヒューマンニズム」が鍵と思える。
- 「情報格差」がない様に「多言語の母子手帳」復活など取り組み可能な手法。
- 保育所を増やす発想は多額の経費、土地などの条件を要するが、「空き教室」「民間保育」「（屋上保育する）企業」など連携した多様な手法で取り組む時代に来ている。
 - 一定の入所条件などはあるが、希望者は保育所に入れる様にしながらも、生活環境の変化も再考して頂きながら、必要とされる方の為にも既得権にならない様にする。
 - 子育てと仕事の両立支援の充実を目指す保育サービスについては、H19.9発行「社会福祉施設検討会議報告書」を元に、さらに分園、園外活動など議論を深めた。

- 株式会社等の参入は国制度上は可能だが、「保育の質＝お金」は受け入れがたい。
- 子どもにとって保育のあり方を市民を巻き込んで八尾としての特色を打ち出しては？
 - 「早く集団に入るほうがよいという意見」、「自宅で育てたいという意見」など、一様ではない保育も多様なライフスタイルを勘案したソーシャルシステムと捉える。
 - 外国とかいう視点ではなく、同じ一市民の子育てニーズを汲んだ生活支援（実態の把握、文化理解、人権尊重をした総合的な支援と情報の共有）が必要。
 - 子ども・子育てに関する情報提供のあり方（各種保育サービスは昔に比べると格段に増え、情報誌もあるが、必要な人に届いているかの確認調査）と制度支援者の登録数と活動実績数の照らし合わせ、及び「市民活動サークル」など社会資源のリサーチと連携。
- 人権教育、教職員研修の内容充実。

学習会 4月30日（木） 18：30～20：50頃

「介護保険、高齢者福祉、障害者福祉等」に関する課題と方向性に関する意見交換

【介護の学習会を通じて】

- 介護保険では、「自立支援につながるサービス提供のありかた」「周知・啓発（情報の発信と活用）」「不適切な給付の点検と指導」の3つが課題で挙げられた。
- 八尾市の特徴の一つに、介護保険の在宅サービスの給付額＝府下1位がある。
この背景（バックグラウンド）は本当に喜ばしいことなのか、市でも分析予定。
- 必要な人が必要なサービスを使えるしくみが大切。
- いわゆる「老老介護」は深刻。市では、小規模特別養護老人ホームの整備を予定。市で把握している待機者（緊急性が高い方）は200名位。
- 独居で要介護の高齢者には、夜間対応型訪問介護のニーズがあるが、現状、申請する事業者がない。通常の訪問介護でニーズに対応しているという話もあるが、需要と供給のバランス、事業者側の採算の問題等もある。制度上の限界かもしれない。
- 高齢者の状態は変化していくので、総合的・複合的な介護サービス提供があれば理想的（同じ法人で多様なサービスを提供するという方法）。ただし事業者の規模などの問題はある。
- 地域包括支援センターは、行政直営の基幹型のほかに、市内10箇所の設置があり「八尾方式」と呼ばれ、「予防介護のケアプランのほか、総合相談」を担っている。
 - ・総合相談では、介護保険の利用相談から虐待という深刻な問題までさまざまである。
 - ・虐待は認知症絡みが多い。介護を家族だけで抱えることの大変さ。
 - ・介護予防の取り組みは大切。□ 住み慣れた自宅で自立した生活を維持していくことをめざしている。
 - ・地域（市民参画）で支えられることの模索、サービスが届かない人が無いことを目指し汗をかいている。 ←個人情報踏まえながらも現場からの発信が命！

【福祉の分野において】

- 障害者福祉の関係で、市から障害者作業所への発注が行われている。

(例：成人式の記念品等)。作業所が受けられる内容・量との兼ね合いがある。

- 「行政の福祉化」、「やさしい市役所づくり」の視点で、更に「市の物品発注等」の部分でも活路の提案を！ 障害者の自立支援の中で、障害者の作業工賃の問題がある。
- 就労へのステップとなるよう充実していく必要があるのではないか。行政だけでなく、商品の流通経路なども含めて逆提案を企業にする位に支援を考えられないか。
- 地域とのネットワークと連携が重要。地域包括支援センターを核に、地域でのネットワークを図っている。□ 高齢化がこれからも進み、高齢者が増える。ネットワークをこれからも充実し、行政・地域・事業者が連携し、高齢者が安心して暮らせる八尾にしていくためには、何ができるかを模索中。
- 障害者の支援も地域とのネットワークが欠かせない。高齢者の分野で構築しているネットワークがつかえるのではないか？
- 地域で支えるには市民の力が要る。かかわりたい市民を巻き込む方法を目指しては？

【学習会を通じて】

□「八尾市の特性や10年先を見据えた視点・方向性を共に探る。」視点の再認識。

□現行の制度や現状認識には個人差、関心の度合いも互いのキャリアと認める利点と捉え、その個性を互いに補い「B1」としての総点を確認しあう必要性と『B2』『B3』との相互関係、また総括的なグループ「A1」へ意見を反映するスタンスを再認識できました。

□職員にとっては「課題・特性」から話すのは難しいが、あくまでも学習（意見交換会）なので、次回の会議にも是非、部署を超えての「ホリスティック（包括的）な視点」での場に発展させたい。

【総合計画と各分野の関係】を見据えて・・・

・総合計画における市の将来像は、「個別計画の積み上げを取りまとめるのがよいのか、総論でまとめるのがよいのかの議論が、市民懇談会でされている。」

・「水先案内人としての総合計画の役割も重要である」し、「個別計画では具体的な取り組みの集積の部分も必要ではある。」が・・・。

・総合計画と個別計画は、計画期間が違ったり、総合計画策定後に国の方向性が変わることもある。

□現に、介護保険・高齢者福祉・障害者福祉は、第4次総合計画の期間中に次々と制度が生まれ変遷してきた。

・「先を見通すことが難しいが、大きな考え方（こうありたいというもの）を、市と市民で共有して持つことが最も大切」で、「諸制度はそのツール」と考えるスタンスで、更に意見を取りまとめて行きたい。